

ひとりひとりの、個性がきらり

発達障がい

身近な人や自分のことも含めて、下図のような様子に、悩んだことはありませんか。
もしかしたら、それは発達障がいの特性からくるものかもしれません。
100人中6～7人に発達障がいがあるといわれるいま、決して珍しいものではありません。
障がいのある人が感じる“生きづらさ”をなくすために、できることから少しずつ始めませんか。



落ち着きがない



集中すると周りの様子
に気付かない



雑談が苦手



興味のあることと
ないことの差が大きい



仕事が
長続きしない

発達障がいて？

読んだり書いたり、人と話したりー。成長するにつれ、脳機能の発達により、できることが増えていき、人それぞれ、得意なことと苦手なことも出てきます。

発達障がいの人の場合、得意と苦手の差が大きいことで、生きづらさを感じてしまいます。原因は育て方にあるのではなく、元々その人が持っている特性といわれています。

大きく3つの種類に
分かれます

自閉スペクトラム症 (ASD)



人との交流や
臨機応変な
対応が苦手

注意欠如・多動症 (ADHD)



忘れやすい
気が散り
やすい

限局性学習症 (LD)

読み・書き・
計算の一部
が苦手



*代表的な特徴を掲載しています

どうやって関われば良いの？

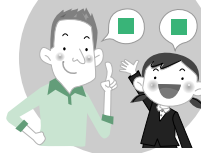
集中力が欠ける、会話がうまくできないなど、発達障がいのある人に見られる特徴は、多くの人が一度は経験したことがある悩みといえます。

だからこそ、本人の立場になって、その人に合った関わり方の工夫をしてみましょう。

また、悩みやつらさを感じる時は、我慢せずに、医療機関で専門的なアドバイスを受けることも考えましょう。

“ほんの少し”の優しさを積み重ねてー

ひとつずつ伝える



メモに書いて伝える



集中できる環境に



ほめる



自分への
優しさも



相談
窓口

毎日の“暮らしの中でできる支援”を一緒に考えます。大人の相談も受け付けています。

市 発達支援センター(山東庁舎 健康づくり課内) ☎55-8117 FAX 55-2406